

2024 年度通期決算説明会における主な質疑応答

(2025 年 2 月 6 日 (木)、東京)

Q1. 2024 年 12 月期において減損損失を 238 億円計上しているが、減損の理由とこれによる今後のコスト改善効果はどれくらいか。

A1. ディスプレイ事業は、事業全体で利益は出ていますが、市場が中国にシフトしていることに加え、日本拠点では製品開発やプロセス開発を行っていることにより収益性が低下しています。複合材事業は、厳しい競争環境が続く中、コスト高騰等の影響を受け収益性が低下しています。これら減損損失の計上により、ディスプレイ事業では 10 億円半ば程度、複合材事業では 20 億円程度減価償却費が減少する見込みです。

Q2. 2025 年 12 月期の営業利益は、2024 年 12 月期と比較して大幅な増益を計画しているが、その要因を教えてください。

A2. 主にディスプレイ事業における製品価格の引き上げ、電子デバイス事業における半導体向け製品の好調な販売継続、複合材事業における生産性改善等による収益改善を見込んでいることから、営業利益の増加を計画しています。

Q3. ディスプレイ事業の事業環境と、昨年から取り組んでいる価格改定の進捗について教えてください。

A3. 足許では中国で省エネ家電への補助金交付による最終製品需要の増加などが追い風となり、ガラスの需要は堅調に推移しています。当社においては、第 10.5 世代ガラス基板の販売拡大、高精細ディスプレイ向けの高耐熱性低熱収縮ガラス基板の生産性改善、全電気溶融炉への切り替えによる生産性と品質の向上に取り組みます。また、スピーカー振動板用や人工衛星ソーラーパネル用など、ディスプレイ以外での販売が拡大してきました。価格に関しては、原材料の値上がりを受けて昨年下半年からお客様と交渉しています。昨年下半年と今期を合わせると、他社並みに価格を引き上げられると考えています。

Q4. 複合材事業の事業環境と損益改善の状況について教えてください。

A4. 需要が回復しない中で厳しい競争環境が続くと見込んでいます。フラットガラスファイバの拡販や設備当たりの生産性改善、減価償却費の減少によるコスト改善により 2025 年 12 月期は収益改善に努めます。

Q5. 半導体用サポートガラスの好調な需要は継続する見通しか。

A5. 同製品は、ガラスの平坦性、幅広い熱膨張係数に対応可能なこと、プロセス後の剥離のしやすさを評価いただいています。2025 年 12 月期においても好調な需要が継続する見通しであることから、引き続き生産能力の拡大を積極的に行い、販売拡大につなげてまいります。

Q6. 次の収益の柱として期待できる無機コア基板はいつごろ事業化をイメージしているか。

A6. 現在、ガラスコア基板と GC コアという 2 製品に対して多くの引き合いをいただいております。サンプル提出・性能評価を進めています。半導体製造において無機コア基板が本格的に使われるのは 2028 年頃になると考えていますが、しっかりと準備をして事業機会を逃さないようにしていきます。

Q 7. 政策保有株式は今後も縮減していくのか。

A 7. 今後も、保有目的が適切か、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等を具体的に精査し、保有の適否を検証し一層の縮減を進めていきます。

※このメモは、投資家の皆様へのご参考として掲載するものです。

※このメモは、説明会における質疑応答の一字一句を全て書き起こしたものでなく、弊社の判断で簡潔にまとめさせていただいておりますので、ご了承ください。

※このメモには、将来の弊社の業績や弊社を取り巻く業界の環境に対する予想が掲載されています。これらは弊社グループが開示時点で入手可能な情報に基づく判断によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。また、このメモの内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。